

笹川保健財団 地域啓発活動助成

2021年 6月 17日

公益財団法人 笹川保健財団

会長 喜多悦子 殿

2020年度地域啓発活動助成
活動報告書

標記について、下記の通り活動報告書を添付し提出いたします。

記

活動課題

「精神看護をもっと深く学ぶ会」

活動団体名： 滋賀医科大学医学部看護学科・教授

活動者（助成申請者）名： 河村 奈美子

1. 活動の内容・実施経過

1) 活動の目的

近年精神疾患は5大疾患となり、患者数は増えている。また、精神医療や精神ケアの提供される場は地域に移行し、医療機関を中心としたケアから、地域生活を支援するケアの重要性が認識されるようになった。実際に、看護を提供する場は、病棟から地域、学校などあらゆる場へと広がっている。

精神看護については、このように精神ケアを必要とする対象者が増え、また対象者の持つ疾患にも多様性が大きくなっている状況である。そのため、病院における急性期治療から地域生活へのシームレスなケアのつながりの課題が大きくなっている。その一方で、精神疾患を持つ対象者の地域生活を支える訪問看護師等を含めた「看護職者の学びを通じた情報交換の場」や「サポートし合える場」は十分整っているとは言えず、日々ケアの実践をしながらも、悩む看護師は多い。

そこで、この活動の目的は、学習意欲・働く意欲につながる精神看護の学習会を企画することにより、看護師が学習を通して相談し合える場を提供し、定着させることである。

これにより、精神科医療にたずさわる看護職者等のつながりがつくられ、また、多職種に対する理解や相談が可能になると考えている。さらに、一人で活動する場面の多い看護師や、学習に対してブランクのある方も参加しやすい場を創ることにより、参加者の自信や、自身の看護技術を高める意欲にもつながり、それは、日々の患者ケアに還元されると考えた。

2) 活動の方法

学習会の開催準備：5回の精神看護学に関する学習会を企画した。内容は、すぐに一人でも使うことの出来る看護技術や対象理解に関するものとした。

(1) 学習会開催スケジュール

日程	テーマ	内容
第1回 9/19	自我構造の理解	テーマを中心とした講義 +グループディスカッション +発表とディスカッション
第2回 11/21	自我構造の理解	
第3回 1/23	アセスメントツールの活用	
第4回 3/13	薬物療法と看護	
第5回 5/22	治療的コミュニケーション	

(2) 対象者：精神看護の実践に関心のある医療系の専門職者

(3) 学習会の内容：対象理解について、重要でありながらも一人では学ぶことの難しい自我構造や自我状態のアセスメントを踏まえて全体をアセスメントし、看護の方向性を考えられるような練習を設定する。

(4) 学習会のスケジュール：1回を150分とし、①講義（重要かつ基本的な内容）、②グループワークによる事例や課題の検討（講義内容を事例を通して捉える：事例は個人が特定されないよう加工して説明する）、③グループワークの発表とディスカッション（グループワークによる内容を紹介し全体で議論する）で構成する。

(5) 1～5回各回の評価：参加者から、感想、満足度について評価を得る。

(6) 2020 年度開催の学習会の最終評価：1 回以上参加した参加者から、学習意欲の変化、感想、満足度、参加者同士の繋がりや仕事への影響について、評価を得る。

2. 活動の成果

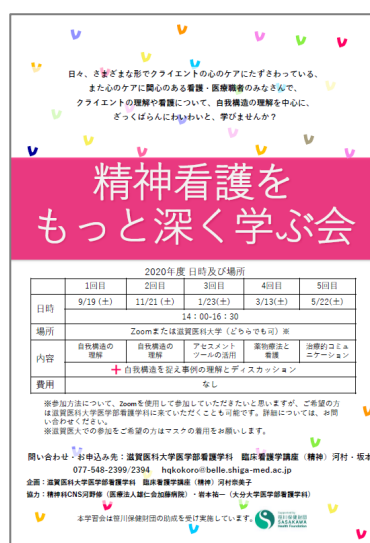
Covid-19 の影響により、当初の予定よりも初回の学習会の開催を 3 カ月延期して、日程を再調整した。また、打ち合わせについても、直接の会議の開催が難しい事もあり、Zoom を使用し、実施した。さらに、学習会そのものの開催に関しても、所属施設の制限があったため、Zoom を利用して、実施することに変更した。

1) 学習会の開催準備

フライヤーの郵送：予定通り、滋賀県を中心に近畿圏（滋賀県、京都府、大阪府の北部）への学習会の案内を郵送した。（精神科系の病院 24 件、精神科クリニック 17 件、訪問看護ステーション 68 件）

また、2 回目からは、所属領域のHPにて広報を実施し、笹川保健財団のHPにも掲載を依頼した。

終了後の参加者へのアンケートはオンライン入力ツールもしくは Fax を活用した。



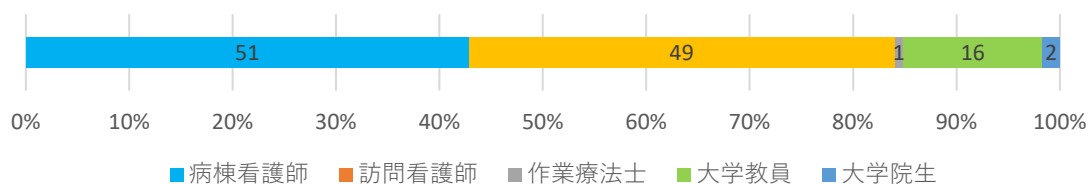
2) 活動環境の準備

学習会の開催に必要な物品の購入：模造紙、マジック、印刷用インク、Zoom による開催の際の機器（集音マイク、購入、ペンタブレット）、関連図書

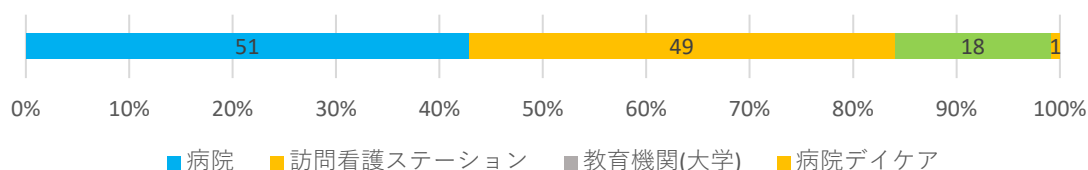
3) 参加者の概要

日程	参加者数	参加人数と参加者の所属所在、() は人数
第 1 回 9/19	14 名	近畿 (12)、九州 (2)
第 2 回 11/21	18 名	近畿 (15)、九州 (2)、関東 (1)
第 3 回 1/23	26 名	近畿 (14)、九州 (12)
第 4 回 3/13	32 名	近畿 (19)、九州 (12)、関東(1)
第 5 回 5/22	29 名	近畿 (20)、九州 (9)

(1) 1~5 回目の参加者 (のべ 119 名：主催者 1 名、講師 1 名含む) の主な業務 (人)



(2) 1~5 回目の参加者(のべ名 119 : 主催者 1 名、講師 1 名含む) の所属機関の種類 (件)



(3) 終了後アンケートによる、満足度及び感想 (各回自由記載欄抜粋、主催者と講師は除く)
各回における学習会内容、時間帯、Zoom 開催についての満足度の回答件数

		第 1 回 (n=13)	第 2 回 (n=14)	第 3 回 (n=17)	第 4 回 (n=21)	第 5 回 (n=22)
学習会の 内容	満足	11	6	8	7	11
	やや満足	2	8	9	13	11
	どちらともいえない	0	0	0	1	0
学習会の 時間帯**	満足	9	7	9	7	4
	やや満足	2	4	5	12	6
	どちらともいえない	2	3	3	2	2
Zoom 開 催**	満足	4*	6	5	9	5
	やや満足	4	6	7	10	8
	どちらともいえない	0	2	5	2	1

(「満足」「やや満足」「どちらともいえない」「やや不満足」「不満足」にて回答を求めた。「やや不満足」「不満足」は各回、回答者 0)

*n=4, **第 5 回学習会では、初回参加者にのみ回答を求めた。

(4) 各回における感想の自由記載の紹介

良かったところ (計 63 件)	課題 (計 26 件)
<ul style="list-style-type: none"> 臨床の方々の関わり方や悩みが分かり、とても学びになる。 今の職場では精神領域について話す人がいないので、話し合える場が持てた。 誰でも気軽に参加させていただける。 online でどこからでも参加できること、例を通して理論の理解を深められる。 知識や経験が無いところにグループワークがあり緊張したが、ファシリテーター役の方がスムーズに進行してくれた。 大学教授や専門看護師などから客観的で論理的なアドバイスを得ることが出来る。 Zoom 開催で遠くの地域の方々とも繋がり交流できること。精神看護を専門とする方々と理解を深めることができること。 講義で理解を深めてから、事例について検討できるため理解が得やすい。いろいろな地域の多くの方と交流ができる。 参加者が熱心な方ばかりで、意見交換するのが楽しみ。 他の病院や施設の方の意見が聞けるので参考になる。ゆるい感じで進行されているので意見が出しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> Zoom は遠方の方とリアルタイムで意見の交換は出来るが、音声聞き取りづらく記入が見えにくい。 Zoom での事例検討や講義は、対面に比べると、反応が得にくさ、円滑に進みにくくタイムラグがある。 画面が流れてしまい理解しないまま後から確認が出来ない。 もう少し時間があってもよかった。 終了後の交流を持つと良いと思う。 ネット環境なのでリアルなその場の空気感が分かりづらい。

3 回目の様子



参加者には報告書への掲載の承諾を得ています。

4) 最終評価アンケートの結果 (1 回以上の参加者に対する調査)

学習会を 1 回以上参加した対象者にたいして、アンケート調査票にて、学習会参加による、継続的学習のモチベーションの有無に関して回答を得た。(滋賀医科大学研究倫理委員会の承認 (RRB20 036))

アンケートの配布に同意の得られた 39 名のうち、36 件の回答を得た (回収率 92.3%) (2021 年 6 月 16 日時点)。そのうち、チェック漏れの無い 26 件 (66.6%) を有効回答とした。

(1) 学習会の参加者による個人の参加目的とその達成度

24 名が、学習会について個人の参加目的を設定していた (参加目的の総数 71 件)。各個人の参加目的全体における達成度は、「達成した」35.2%、「やや達成した」47.8%、「どちらでもない」9.8%、「達成できなかった」5.6%、「全く達成できなかった」0%となった。最も多かった参加目的は「精神科看護について学びを深めたい(14 件)」であった。

(2) 学習会参加後において変化した内容

『学習意欲』、『関心の拡がり』、『リーダーシップ』、『実践力の発揮』の意図に関して 16 項目を設定し、それぞれの意欲について、「増加した」から「減退した」までを順に 5 段階にて回答を得た。全ての回答者が全ての項目において意欲が「増加した」「やや増加した」「変わらない」と解答しており、「減退した」「やや減退した」という回答は無かった。

5) まとめ

5 回の学習会の実施により、Covid-19 による影響を受け、現地の開催から Zoom を活用した開催へと変更し、それにより本学集会を広報する範囲などの検討が十分ではないこともあり、全回にわたる参加者もあるが、途中から徐々に参加者が増加した。関東から九州地方の参加が得られ、Zoom により目的を共有する参加者となつたりやすいという今後の可能性についても考えられた。

感想からは、継続的な開催の今後の要望や、堅苦しくない場の参加しやすさなど、目的としていた、学びやすく能動的参加につながる学習と交流の場について形成されつつあり、活

動目的はある程度達成されたと考えられる。

Zoom 活用による開催であることは、機器のスムーズな操作の課題や交流形式にも限界があるのだが、新しい生活様式を活用し、円滑に運営できるような工夫が必要であると考えられた。今後はそのような環境の中における「学びの場」をさらに模索しつつ、その定着とともに、交流の出来る場の企画なども検討し、精神看護について学び合い考えあうコミュニティについても参加者を中心に検討していきたいと考えている。

3. 今後の課題

学習会の継続実施

今回の学習会の実施は、徐々に参加者が増加し、また交流会の要望などもあった。このような学習会のニーズは高いと考えられ、今後は要望を取り入れながら、参加しやすくまた、参加者の日々の看護実践に活用できる内容を検討し、継続を予定している。令和3年度は交流会の時間を設定し実施予定である。

4. 活動成果の公表予定

活動による内容と満足度、及び学習による変化については、看護系学術集会において活動プロセスと評価を発表及び投稿を公表予定である。